

FEBRUARY.
2026 **2**
—
No.617



おきぎん 調査月報



くがにくとぅば【黄金言葉】 vol.256

沖縄の食文化とともにある
かまぼこを、次の世代へ

株式会社西南門小力マボコ屋 代表取締役社長 玉城 理

地域リレーションシップ情報 254

沖縄総合事務局経済産業部の取組について

【その1】「持続可能なまちづくりを考える」をテーマ
に「地域交流会 in 沖縄」を開催しました！

【その2】令和7年度安全保障貿易管理等説明会を開催

おきぎんマーケティングレポート

第102回おきぎん企業動向調査
(2025年10～12月期) 調査結果

- 1 **くがにくとぅば[黄金言葉] vol.256**
沖縄の食文化とともにあるかまぼこを、次の世代へ
株式会社西南門小カマボコ屋 代表取締役社長 玉城 理
- 5 **地域リレーションシップ情報 254**
沖縄総合事務局経済産業部の取組について
【その1】「持続可能なまちづくりを考える」をテーマ
に「地域交流会 in 沖縄」を開催しました！
【その2】令和7年度安全保障貿易管理等説明会を開催
- 6 **おきぎんマーケティングレポート**
第102回おきぎん企業動向調査
(2025年10～12月期) 調査結果
- 16 **ホテル事業者における業務概況調査報告書**
- 32 **けいざい風水**
- 34 **県内景況・確報**
2025年11月の県内景況
- 42 **国内景気動向**
- 44 **沖縄マーケティング情報**
①沖縄県内の事業所数・従業者数・人口・世帯数
②世界の中の沖縄(年次)
③グラフでみる沖縄経済
④数値でみる沖縄県・全国の経済動向(月次)
- 64 **経済社会のできごと (沖縄、国内・海外)**
2025年12月



表紙写真/ランタン祭りフェスティバル(読谷村)

沖縄の食文化とともにある かまぼこを、次の世代へ



株式会社西南門小カマボコ屋
代表取締役社長 玉城 理



大正8年(1919年)の創業以来、糸満の地でかまぼこ作りを続けてきた株式会社西南門小カマボコ屋。沖縄の食文化に根差しながら、時代の変化に合わせて商品づくりや販路を工夫し、地域の食卓と行事を支えてきました。今回は、3代目社長である玉城 理氏に、創業からの歩みや今後の展望などについてお話を伺いました。

糸満の漁師町から始まった家業

当社の原点は、糸満の漁師町の暮らしにあります。創業者である曾祖父は漁師として海に出て、曾祖母は、曾祖父が獲ってきた魚を引き取り、かまぼこを作って販売することで家計を支えてきました。当時、漁業に従事する家庭では、自宅でかまぼこを作って売り歩くことがごく一般的だったと聞いています。商工会の調べでは、1965年頃、糸満市内だけでもかまぼこ店は約20社あったとされます。そうした暮らしの延長線上に、当社の家庭のかまぼこ屋としての創業がありました。その後、子ども世代はそれぞれ別の事業で独立し、家業を継ぐ人がいない状況の中で、孫にあたる父が事業を引き継ぎ、私は三代目として、家業をつないでいます。



▲創業者・玉城 ウサ氏 (左)

100年をつないだ転換点

創業から100年という時間の中では、海的环境も暮らしも大きく変わりました。創業当時は、近海で魚が豊富に獲れ、砂浜の近くまで魚が上がることも珍しくなかったそうです。私が小学生の頃にも、浜辺で沢山の小魚が泳いでいるのを見た記憶がありますが、現在では同じ景色を見ることが難しくなっています。環境の変化に合わせて原料の調達や製造工程を見直し、品質を守るための試行錯誤を重ねてきました。また、100年の歴史の中には戦争もあります。戦時中は疎開を余儀なくされ、戦後に戻った時には、商いも暮らしも一度失われていました。何もない状態から、経験とノウハウだけを頼りに、かまぼこ屋をゼロから立ち上げ直したことは大きな転機でした。



そしてもう一つの転換点が事業承継です。事業を継ぐ人がいない中で、父が名乗り出なければ当社はそこで途切れていたかもしれません。かまぼこ屋が減ってきた背景には、環境の変化だけでなく、後継者不足という構造的な問題があります。だからこそ、家業を続けるだけでなく、継げる形にすることが、いまの課題となっています。



次の世代につなげる体制づくり

私が会社を継ぐことになったのは、今から約10年前のことです。当初は、何から手を付ければよいか分からず、商工会に相談しながら経営について学び、事業をどう続けたいのかを整理してきました。まずは、次の世代につなげる体制づくりを優先しています。従業員は50～60代が中心で高齢の方も多一方、若い社員も2名ほどいます。技能は一朝一夕では伝わりません。だからこそ、製造技術の継承だけでなく、仕事の進め方、働き方の整備といった土台を少しずつ整え、社内に浸透させています。また、私が代表になってからはブランディングにも着手しました。以前はカタログもなく、当社の商品の魅力を伝える土台が弱かったため、課題を整理しながら広告・宣伝の形を整えました。創業100年の節目には、敬老の日に保育園でデコレーションかまぼこを作り、子どもたちが祖父母世代へ届けるイベントも実施しました。かまぼこを通じて世代をつなぐ取り組みは、地域に根差す当社らしい発信になったと感じています。



職人の技術

当社では、かまぼこの原料であるイトヨリダイとスケソウダラを配合し、組合を通じて仕入れています。魚種や配合、味付けは各社の個性が出る部分ですが、当社が特に重視しているのは温度管理の工程です。気温や湿度によって、すり身の状態は日々変わります。氷を足すか、練りの強さをどう調整するか。食感に直結する判断は、最後は職人の手触りと感覚に委ねています。機械も使いますが、味付けや食感の要は職人の技術が担っています。



元祖「ばくだんおにぎり」

当社の看板商品の一つが「ばくだんおにぎり」です。漁師町である糸満では、海の上で漁師が片手で食べられるよう、かまぼこでおにぎりを巻いた料理を食べる習慣がありました。ある時、父が取引先へ配送に行った際、取引先の方がその料理を「ばくだんおにぎり」という名前で提供していたといいます。とても良い名前なので使用できないかと父が相談したところ、承諾をいただき、当社の商

品として世に出すことになりました。今から約40年前の出来事であり、「ばくだんおにぎり」という商品は、当社が元祖になります。なお父は、商標登録をあえて行いませんでした。登録をすると、他の県内のかまぼこ屋が作れなくなってしまうためです。県内の業界全体のために「独占しない」という判断をしたことは、当社の姿勢を表すエピソードでもあります。



沖縄のかまぼこが持つ誇り

近年は、15年ほど前から生産量の減少が続く、消費者のかまぼこ離れも進んでいると感じます。県外・海外の商品が溢れ、食の選択肢が増える中で、かまぼこは選ばれにくくなりつつあります。それでも「西南門小のじゃないとだめ」と言ってくれるお客さまもいます。特に、沖縄の特別な日にはかまぼこが欠かせません。カステラかまぼこはいなむどうち等に用いられ、赤白のかまぼこは仏壇へのお供えや重箱料理にも入ります。



県内と県外のかまぼこには違いがあります。とりわけ沖縄の伝統料理に使うかまぼこ

は、「供え物」としての意味合いも強く、原料の品質が重要になります。魚肉には白身のランクがあり、皮が混じりやすい二級品などもある中で、沖縄では今も特級品のランクを仕入れて使う文化が残っています。真っ白で皮が混じらない魚肉かどうかを確認し、品質を担保している点は、沖縄のかまぼこが持つ誇りだと感じています。こうした価値を、もっと消費者の方に知ってもらえるように、発信していかなければならないとも思っています。沖縄の食文化を守るだけでなく、未来に向けた挑戦も続けます。



沖縄の伝統文化と一緒に走ってきたかまぼこ

社員が中心となって新商品の試作に取り組み、配合を変えたり素材を加えたりと試行錯誤を重ねています。新たな商品開発も進め、接点を増やしていきたい。沖縄の伝統文化と一緒に走ってきたかまぼこを、次の世代へ残すために、できることを一つずつ積み重ねていきます。西南門小カマボコ屋は、大正8年の創業以来、糸満の暮らしとともに100年を超える歴史を重ねてきました。上質な原料と職人の手仕事による品質づくりにこだわり、沖縄の食文化を支えるかまぼこを守り続けています。創業者の想いと誇りを受け継ぎ、地域とのつながりを大切にしながら、次の世代へつなぐために、これからも邁進してまいります。

ひと口かまぼこ

県外配送
OK!



マリンボール (全卵)
人参のやさしい甘みが
お子様に大人気!

ゴボー入り (卵白)
卵白すり身と
ゴボーの相性が抜群!

要冷蔵

真空パック：賞味14日

ビニール包装：賞味4日

ぐな〜ぐな〜かまぼこ

県外配送
OK!

紅しょうがが絶妙!



紅しょうが入り

(卵白)

要冷蔵

真空パック：賞味14日

ビニール包装：賞味4日

角〜ぐな〜かまぼこ

食べやすいサイズだからおやつにぴったり



ひじき
人参入り

ゴボー
人参入り



県外配送
OK!

(全卵)

要冷蔵

真空パック：賞味14日

ビニール包装：賞味4日

鯛かまぼこ

めでたい日には欠かせない細工かまぼこ

県外配送
OK!



(全卵)

要冷蔵

真空パック：賞味14日

赤・白かまぼこセット

お祝いや沖縄行事にはやっぱり紅白かまぼこ

県外配送
OK!



(卵白)

要冷蔵

真空パック：賞味14日

ビニール包装：賞味4日

赤・カステラセット

沖縄の行事やお祝いに喜ばれる定番セット

県外配送
OK!



(卵白)

要冷蔵

真空パック：賞味14日

ビニール包装：賞味4日

糸満海人蒲鉾セット

(全卵)

(卵白)

要冷蔵

真空パック：賞味14日

県外配送
OK!

Aセット / ￥2,920

Bセット / ￥3,020

ばくだんセット / ￥4,800



- ・ショウガ4枚
- ・ひじき5枚
- ・マリンボール (150g) × 2
- ・ゴボー(平)2枚
- ・まるぐな2本



- ・ショウガ3枚
- ・ひじき3枚
- ・ミニチキ5枚
- ・マリンボール (150g) × 2
- ・ゴボーひと口 (150g) × 2



- ・ばくだんおにぎり5個 (マケ・うめ・みそ 明太子・チーズ)
- ・コンセット1本
- ・チキアギ1枚
- ・まるぐな6本
- ・赤カマボコ半分1本
- ・カステラ半分1本

(株)西南門小カマボコ屋

〒901-0306 沖縄県糸満市西崎町4-17-21

◆営業時間 / 8:00~17:00

◆定休日 / 日曜・木曜

ご注文
お問合せ

TEL : 098-994-2331

FAX : 098-994-2320



けいざい風水



高まるサイバー攻撃の脅威

一人一人ができる対策徹底を

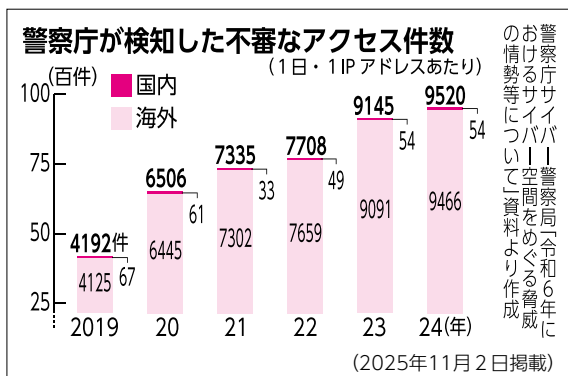
沖縄銀行 監査部 上席検査役
漢那 朝也

スマートフォンやインターネットの普及で、私たちの生活はとても便利になりました。その一方でサイバー攻撃の脅威が高まっていることをご存じでしょうか。

警察庁の調査によると、1日あたり一つのIPアドレスに対して約9,500件もの不審なアクセスが検知されています。こうした攻撃は特定の地域や組織に限らず、社会全体に影響を及ぼしており、深刻な状況が続いています。私たちが安心して暮らせるデジタル社会を守るためにも、サイバーセキュリティの強化は今非常に重要な課題です。

サイバー攻撃は巧妙化し、企業や自治体、医療機関などが標的となるケースが増えています。ランサムウェアによるデータの暗号化や身代金の要求、フィッシング詐欺による個人情報の盗難など被害は深刻です。これらの攻撃は金銭的な被害だけでなく、社会全体の信頼や安全を脅かす大きな問題となっています。

脅威に立ち向かうには、一人一人の意識と行動が何よりも重要です。不審なメールのリンクや添付ファイルを開かない、複雑なパスワードを設定する、2段階認証を活用するなど、できる対策を徹底しましょう。企業や組織では社員教育やシステムの定期点検が欠かせません。サイバーセキュリティは専門家だけに任せる問題ではありません。県民全員が関心を持ち、適切な行動を取ることで安全なデジタル社会を築くことができます。今一度、サイバーセキュリティについて考えてみませんか。



女性活躍推進法 節目の年

労働力率「M字カーブ」の変化

おきぎん経済研究所 研究員
玉城 円

1985年に男女雇用機会均等法が成立し40年、2015年に女性活躍推進法が成立し今年で10年となります。女性活躍推進法は、当初、2025年度末までの時限立法として制定されましたが、25年の法改正で36年まで延長されることになりました。

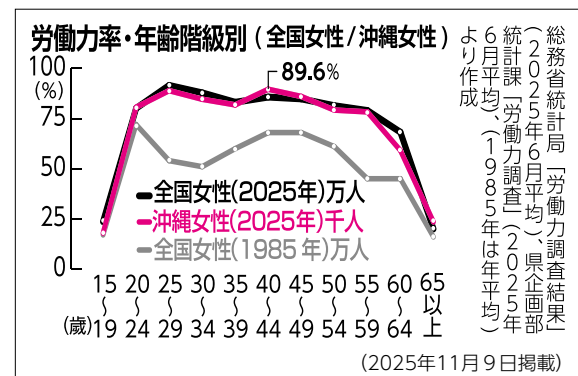
女性活躍推進法は働く女性の環境整備を進め、少子高齢化における労働力減少を補う目的で制定された法律です。この法律に基づき従業員101人以上の企業には、一般事業主行動計画の策定・公表が義務付けられています。

女性が働きやすい環境づくりに取り組む優良企業には厚生労働省から「えるぼし認定」が与えられます。県内では、33社がえるぼし認定を受け、2025年6月時点の県内女性の就業率は57%と年々増加傾向にあります。

全国的には、20代後半から30代前半にかけて結婚・出産時期に労働力率が低下するいわゆる「M字カーブ」の底を年齢階級別でみると、2025年の労働力率は全国83.1%、沖縄は81.8%となっています。機会均等法が成立した1985年の全国51%と比べて大きく改善しています。

近年では人手不足の影響もあり、M字カーブは徐々に浅くなり、台形型へと近づきつつあります。

社会全体で女性活躍に関する意識が高まる中、育児のみに関わらずライフステージに応じた多様な働き方ができる環境整備の構築が求められています。法律成立の節目を迎える今、女性が長く活躍できる社会のあり方について改めて考えてみませんか。





企業価値担保権 について

無形の価値を担保に資金調達

沖縄銀行 審査部 審査役
古謝 秀幸

企業価値担保権という言葉をご存知でしょうか。企業価値担保権とは、従来の不動産担保や社長ら経営者による個人保証に依存した融資とは異なり、会社の将来の成長や利益といった無形の価値を担保として資金を調達できる新しい制度です。

令和8年5月25日から施行される「事業性融資の推進等に関する法律」によって、この制度が正式に開始されます。企業価値担保権における担保目的財産は、企業が保有するすべての財産が担保の対象となります。たとえば、将来的な売り上げや利益、ブランド力、ノウハウなども「価値ある財産」として評価されます。

これまで、中小企業やスタートアップ企業は、不動産などの十分な有形資産や実績がない場合、銀行から融資を受けることが難しく、資金調達が困難なケースが多くありました。

しかし、この制度の普及によって、企業の将来性や強み（売り上げ見込み、特許などの知的財産、顧客基盤、ブランド力、ノウハウなど）を担保として活用できるようになり、金融機関から融資を受けやすくなるとともに、社長の個人保証（経営者保証）が不要となる可能性もあります。

制度の開始はまだ先ですが、企業経営を円滑に行っていくための資金調達の選択肢が広がることは、大きな前進です。

企業の成長と沖縄県経済の発展に向けて、ぜひさまざまな制度の活用を検討してみてはいかがでしょうか。

事業の将来性に基づく融資のための新たな選択肢 (令和8年5月25日施行予定) 出典：金融庁 HP 資料

事業者と金融機関の 緊密な信頼関係を構築する		事業の継続・成長を支える
主な 活用 例	スタートアップ企業への融資	赤字資金への対応など
	地域の中小 / 中堅企業への融資	事業の継続・成長のための 必要な設備投資などに対応
	事業再生・事業承継	新経営体制などでの 資金需要に対応
	M&A / プロジェクト・ファイナンス	既存の全資産担保設定実務の 軽減負担とコスト削減

(2025年11月16日掲載)



北中城村とSDGs

食・福祉・観光・住まいがつなぐ未来

沖縄銀行 北中城支店長
安里 基子

近年、企業や自治体がSDGs（持続可能な開発目標）の達成に向け積極的な活動を展開しています。

私が勤務する北中城村では、SDGsの理念と連動した「北中城みらいづくり」構想を村全体で推進しています。構想は、農業を中心に「食・福祉・観光・住まい」が連携し、持続可能な地域づくりを目指すものです。村民、地元企業、行政が各々の役割を担い、協働して取り組んでいます。

具体的には「農を活かした健康福祉の里づくりプロジェクト」を立ち上げ、再生可能エネルギー施設、医療・福祉施設、観光型農園、優良田園住宅など、村の遊休地を活用して段階的に整備しています。地域資源の活用と地産地消を促進するとともに、村民の健康増進、雇用創出、地域活性化を図り、災害にも強い安心・安全な暮らしの実現を目指しています。これまでに第1、第2段階を整備する再生可能エネルギー施設の一部が完成しました。生ゴミをエネルギーに変えるバイオガス発電施設や有機農業に必要な肥料を製造する施設です。隣接する小学校と連携し、学童農園が整備され、児童が農業や環境について学ぶことができます。

この取り組みは地域再生計画として内閣府にも認定され、民間事業者や自治会との協定締結を通じて、着実に実現に向けた体制が整えられています。北中城村がSDGsの理念を地域に根付かせ、先進的なモデル地域として発展していくよう、地元金融機関の立場からも積極的に貢献していきたいと思っています。

北中城村が目指す SDGs

北中城村 HP より一部引用

農 × 住

農を中心とした人と人との交流ある村での暮らし

農 × 食

村の農産物やエネルギーの地産地消
6次産業化商品

農 × 福

農を活かした心身の健康増進

農 × 観

村内外に北中城の魅力を伝える
観光・体験型の場

北中城みらいづくり

(2025年11月23日掲載)